

重尾道支部の小山田西検事は土生町に出張して因島警察署にて争議の経過を  
聞き勞資双方の關係者に就き取調べてゐる。

六月十九日 大阪毎日新聞記事

一萬四千の因島町民今や死活に當面す 最後の十八日

正午争議因遂に回答を送らす 職工の家族は飢

餓に瀕して米泥棒を働く

大阪鉄工所 因島工場における勞資争議は既報の通り工場側から職工側  
に對し四ヶ條の新提案を答へ十八日正午までに回答を乞はしむるに工場側は  
ことになつてゐるが工場側の提案は職工側の要求と甚だしい距離があるので十  
八日正午に至ると職工側から何等の回答がなかつた。元米同工場の所在地土  
生三庄兩町の人口は一萬四千餘ありこれ等が因島工場のために生れた所で町  
民は殆ど全部工場關係者並にこれ等を容れしより商店のみで年々工場

のため同町に落ちる金月來に百兩以上を建てしめてゐるが争議勃発以來月餘に  
及ぶので町は疲弊し職工の子弟は飢に迫られ現に十七日罷業職工の妻が飢餓  
のあまり米泥棒をして警官に致張られた悲劇あり。から状態であるから工場  
を断然閉鎖すれば土生三庄一萬四千の町民は忽ち死活問題に當面するの  
で其は助下は此點に就いて甚だしき苦慮してゐる。

模範的の静かな争議 馬淵高等課長談

因島労働争議につき馬淵廣島縣高専課長は語る

争議が始まつてから前後三十八日間因島に滞在して罷業職工の行動を觀察  
した。罷業職工は総て約二千名だが之を十二支部に分けて各団体を組織して  
活動して居るが労働争議としては中途で僅かな騒擾を起したのみで全国稀に  
見る模範的の静かな争議だと思ふ工場を閉鎖するも或は從來の態度を変更  
し由々しい問題と成るかも知れぬから懸念を以て町當局と協力して調停を  
急いで居る。